

×雪質。

- 十日市 森林と溜池の水量（岡山県山林課委託）
昆虫季節観察。
江ノ川出水警戒報。
北備の霧。
- 本山 稚草の発生と気象条件との関係。
○樹木種子貯蔵用風穴内の気象。
- 北小国 筑後川出水警戒報。
晩霜予報。
- 矢 嶽 川内川及び球磨川流域出水警戒報。
湧泉量。
- 霧 島 山岳気象
天然林の生態。
稚草の発生と気象条件との関係。
大浪地の水温及び冬期結氷の状況調査。
霧島山の天候通報。

かくして農林省所管の第一期治水事業は遂行途上種々の都合で当初の18ヶ年計画が24カ年に延長せられたので昭和9年度までで一応終了したのでありますが、この頃すでに予め第二期治水事業計画準備が着々進められておりました。たまたま国会解散がありましたので昭和10年度の予算は前年度踏襲ということで偶然にも第一期治水事業経費は事実上25個年継続事業の形となりました。しかし前述の通り「森測の在り方」についての検討は間断なく続けられ、その結果として実行可能な事柄は徐々に業務の内容改善が行われておりました。そこで昭和11年度以降12個年計画による第二期治水事業費予算成立により「森測」の名称は昭和11年5月末日で消えてしまい翌日すなわち昭和11年6月1日から森林治水試験地と改称

して再出発したのであります。

太平洋戦争の惨敗に依るわが国政の一大変革に伴い林野行政の統一が行われ、林業試験場の特別会計編入決定などがあって色々様子が大いに変ってしまったので、その後の変遷は詳細に申述べますと長々となりますから、森測当時および森林治水試験地の位置で今お林業試験場の試験地あるいは分場と改称されて残存している個所だけ列記しておくことに止めましょう。

十日町試験地。小国試験地、好摩分場。釜淵分場。高島分場。

最後に森測の成果の大略を次に列記してご参考に供します。

1. 気象観測成績の発表。

- (1) 森林測候所報告
(大正2年12月第1号～昭和11年3月第23号)
- (2) 森林治水試験地気象年表
(昭和14年9月第24号～昭和15年11月第26号)
- (3) 森林治水試験地森林測候所累年気象表
(明治45年～昭和11年)

2. 調査、研究の発表

- (1) 森林測候所特別報告
(大正3年12月第1号～同12年8月第10号)
- (2) 森林治水気象彙報
(大正12年2月第1号～昭和10年3月第15号)
- (3) 森林治水試験彙報
(昭和12年3月第16号～同19年7月第20号)

3. 其他

林業試験場、山林局、林野庁等の刊物、や各営林局報、日本林学会誌などに発表されたものもある。

気象の英語 (10)

有住 直介

12. rain water, ~process

名詞を並べて一つ概念を表わすことは、どこの国語にでもあるようだが、何でもつなげればいいというわけではないので、まことに面倒である。ただしこの rain water = 雨水のように2つの名詞が同格的に使われているものは、いいことになっている。いいと云うよりはむしろしななければいけないのかも知れない。rain water は詳しく書けば、water fallen as rain であるが、これでは冗慢でいけない。同格的といったのは、雨水は「雨であり同時に水であるもの」を指しているからである。ただし、water rain = 水雨とは云わない。そ

れは水飴になるからだ、と云ったのでは、だじゃれ、になって了う。ほんとは、英語では大切な語は後に置き、前の名詞は形容詞的になるからで、water rain では「水の雨」となり、水でない雨はないから、変てこなことになる。そこで rain water = 雨の水、でなければならぬというところ。rain の形容詞には rainy もあるが、これは「雨の降っている」という意味だから、rainy clouds = 雨雲、はいいが、rainy water はだめ。

process = 過程、という言葉は、よくこのように使われる。たとえば、mountain-formation process = 造山過程、は山を造るという過程、で、山を造ることと過程とは同格的である。rain-formation process = 雨がでる過程、も同様である。